



ひび北野

〒600-8312 京都市上京区東田町14-1
TEL/FAX 075-463-2020
<https://hibi-kyoto.com>



京都 北野

古民家ツーリズム会議

文・一般社団法人全国古民家再生協会京都第一支部 支部長 奥田 拓司 氏

全国で八百万戸を超える空き家の中には相当数の古民家がある。日本伝統文化の縮みである古民家は大きな負の財産となりつつある。「古民家フリースム会議」は国内外の観光客が魅力的なビレッジステイや観光ができるように古民家を中心とした地域の情報発信を視野とする会議だ。古民家を活用できれば文化交流促進だけでなく、インバウンド振興の受け皿不足を解消することも期待できる。さらに、環境保全・文化継承、景観保護、海外へ向けての日本文化の訴求効果もある。一般社団法人全国古民家再生協会は、一般財団法人リジゲンステイ財団や株式会社JTBなどと協力しながら古民家の活用方法を観光庁や内閣府提言としていく予定だ。今回、京都北野にある古民家簡易宿泊所「ひび北野」で第一回の会議がおこなわれた。

ガシラガシラからとらとらともを響く心地よい音色。町中が職工の音でみそこに移らず住居一体の民家が数を減らしたとはいえ、京都・西陣を歩けば今もあるの壁に出逢うことができる。

物十台から家族で集めた五山の造り火はいの頃からカウシンの影になり、月明かりに足守られ一室で過した幾時かは突如なき地じりる。地蔵やお祭事には格子を叩き広げ、子どもを連れ招き入れてきた民家が、他人を寄せ付けないうりに変わつた。建物は

産業の衰退とともに、町が崩壊してきたこの半世紀、幸か不幸か復讐この時代に生まれ育てられた。

町の歴史は失われ、地域文化は色褪せ、扶助精神は希薄になつた。今日の西陣はこれまの住人意識が溜り出した姿に幾ならぬ。これを発覚とするならば、失われたことが余りに多すぎるのではないかと、これらの事象は何も京都に限られたものではない。中でも地域でシボルの役割を果たしてきた古民家が姿を変えたことの影響は計り知れない。

第一回古民家フリースム会議が開かれた九月十五・十六日、会場のはび北野は、江戸時代に建てられた酒場を活用し、簡易宿泊所が営まれて、昔町の格好やかゝりものとほほい、京都北野に約二百年の間ひびき、そりと町に溶け込んできたシボルの建物だ。そこで単に「泊まる」ではない、茶道・書道・写経・水滸園などを取り入れ、密接な文化と過すマドに醍醐味がある、冒険にあるように、西陣は職物を中心に繁栄し、地域特有の文化を生み、今日に価値を残す。これからの古民家再生を、宿の再生で終わらせてはならない。

古民家フリースム会議は、今後とも各地で開催される予定だ。これからの地域創生に欠かせない、各地で残れ失われてきた「コト」の再生と「文化と共に地域にたくわて」必要古民家活用の構築に是非とも期待したい。